

ライバルのビール2社が
鉄道輸送で共闘

アサヒビール
キリンビル
日本通運
JR貨物

ビール供給工場を、吹田（アサヒ）神戸（キリン）に変更することで、JR貨物の吹田ターミナルまでのトラック輸送距離を短縮。ビール2社の荷物は、コンテナ収納の状態で吹田に運ばれ、同じ貨物列車に載せて金沢ターミナルへ。到着後は新設の共同配送センターへと輸送、これから各地に小分け配送、という仕組みだ。

我が国物流業界の各団体が加盟する「ロジスティックスの総本山」・日本物流団体連合会。この組織が

毎年選ぶ「物流環境大賞」に、今
年度はアサヒビール、キリンビール、

日通、JR貨物の4社が選ばれた。彼らががつちりと握手、これまでトラック輸送に依存していたビール輸送の一駆き、今年1月から鉄道

世に言うモーダルシフトだが、ただ、これだけでは受賞の決め手に欠ける。最大のポイントは、日頃熾烈な販売競争を繰り広げているアサヒ、キリンの「ビールの二強」が、共同配送で、共闘した点だ。

最大のポイントは、日頃熾烈な販売競争を繰り広げているアサヒ、キリンの「ビールの二強」が、共同配送で「共闘」した点だ。

概要はこうだ。これまで北陸の石川、富山両県へのビール配送には、

アサヒ、キリン両社とも大型トラックによるピストン輸送で対応。ただし、両社のビール工場の大半は太平洋側に位置し、アサヒは名古屋、

キリンは名古屋と滋賀の工場から出荷。その走行距離は200～300kmに達した。だが、CO₂削減が



競合から協業へ。アサヒ、キリンが鉄道貨物による共同輸送で握手

ビル供給工場変更の機転

こうして各社の利害が一致、貨物駅（ターミナル）と工場・ビール配送センターとの輸送に長ける日通を巻き込み、大胆な共同配送に挑む。まず、ビール2社は右川・富山への

今後は、吹田ターミナル上屋でのコンテナ積み替え作業の効率化をさらに追及する他、コンテナへの収納方法や製品に対する養生の改良などにも注力すると宣言する。

この共同輸送で、年2700t削減（現行比56%減）
トランク平均走行距離は160km／
台・運行（同70%減）、ドライバー
運転時間省力化も2万時間／年
(同35%減)、さらにモーダルシフ
ト量（長距離輸送経路でのトラン
クから鉄道コンテナへの切り替え量）
は2100万トンキロ／年（トランク
1万台に相当）の圧縮を達成してい
る。

今後は、吹田ターミナル上屋での

コンテナ積み替え作業の効率化をさ

らに追及する他、コンテナへの収納方法や製品に対する養生の改良な

どにも注力すると言ふ。

炭酸ガスの抜けたビールは頂けない

いが、輸送時のCO₂削減の取り組みは大いに参考にすべきだろう。